

2024年1月

白井なおこ レポート VOL.21

日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこREPORT 発行日：2024年1月10日
発行：日野・生活者ネットワーク 発行責任者：出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央日石ビル4階
TEL:042-514-8695 FAX:042-514-8697 E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



4年ぶりに開催された産業まつり。宝船に代わるデコトラの野菜は、終了後フードバンクに寄付されました。(2023.11.11-12)

学校に行けない・行かない子ども達の 声を聴き、多様な学びの実現を！

子どもが学校に行かなくなる理由は、それぞれです。しかし親子で孤立感に苦しみ、葛藤する状況は同じだと受け止めています。学校は必要です。でも全てではない。子どもが喜んで行きたくなる学校へと変わることと不登校支援を車の両輪で進めていくために、質問・提案しました。

不登校支援計画を！

不登校状態にある児童・生徒の数は全国で約30万人、市内でも2019年度277人、2022年度453人と近年増加の一途をたどっています。



日野市では長期欠席状態にある児童・生徒を対象とした「わかば教室」があります。また、様々な理由で教室には入りづらい児童・生徒のための校内別室指導が、小中6校で実施されています。しかし、どこにもつながっていない児童・生徒の方が圧倒的に多いのが現状です。

文科省は「**登校という結果のみを目的としない**」考えを示しています。しかし現場では必ずしも共有されていないと、保護者からの声で感じています。共有化のためにも、日野市の状況を踏まえた**不登校支援計画**の策定を、調布の「不登校支援プラン」を例に求めました。

どうしても学校が合わないときには

この質問の直前に、教育センターでは「学校が苦手な児童・生徒の保護者の方へ」という相談窓口や居場所等の情報が掲載されたパンフレットを作成しており、一歩前進と評価しています。

学校に行かなくてもいい、ということではなく「**学校が合わないこともある**」という話を入学前から保護者に伝えて欲しいという切なる願いの声を受けています。このパンフレットを活用して実現することを要望しました。

教育長からは、「**学校の改革と学びのアクセスを多様に用意する必要性**」について、熱のこもった答弁がありました。その思いをかたちにするには、教育委員会もまた改革が必要です。

市長には、総合教育会議で不登校支援を取り上げることを求め、前向きな答弁がありました。

誰ひとり取り残さない—学校が変われば社会が変わると信じ、共に取り組んでいきます。

不登校支援のパンフレットは
こちらからダウンロードできます ▶

